

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成27年10月8日(2015.10.8)

【公表番号】特表2014-533491(P2014-533491A)

【公表日】平成26年12月15日(2014.12.15)

【年通号数】公開・登録公報2014-069

【出願番号】特願2014-521869(P2014-521869)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

C 1 2 Q 1/02 (2006.01)

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 A

C 1 2 N 5/00 1 0 1

C 1 2 Q 1/02 Z N A

C 1 2 Q 1/68 A

【手続補正書】

【提出日】平成27年8月13日(2015.8.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

多能性幹細胞から骨格筋細胞を製造する方法であって、以下の工程：

(1) 多能性幹細胞を、胚様体を形成せず、bFGFを含有しない基本培地で3日以内培養する工程、および

(2) 工程(1)で得られた細胞において、MyoD、Myf5およびそれらをコードする核酸から選ばれる1以上の外因性因子を、5日間以上10日間以下発現させる工程
を含む方法。

【請求項2】

多能性幹細胞がヒト多能性幹細胞である、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記工程(1)の培養が1日以内である、請求項1または2に記載の方法。

【請求項4】

前記工程(2)の後、ウマ血清を含む培養液でさらに培養する工程を含む、請求項1から3のいずれか1項に記載の方法。

【請求項5】

前記多能性幹細胞が、MyoDまたはMyf5をコードする核酸を含む薬剤応答性誘導ベクターを導入した多能性幹細胞であり、前記工程(2)が、該ベクターと対応する薬剤の存在下で培養することにより行われる、請求項1から4のいずれか1項に記載の方法。

【請求項6】

多能性幹細胞から骨格筋細胞を誘導するキットであって、MyoD、Myf5およびそれらをコードする核酸から選ばれる1以上の因子を含むキット。

【請求項7】

MyoDまたはMyf5をコードする核酸を含む薬剤応答性誘導ベクターを含む、請求項6に記

載のキット。

【請求項 8】

請求項 1 から 5 のいずれか 1 項に記載の方法で製造された骨格筋細胞を用いることを含む、ミオパチー治療または予防剤のスクリーニング方法。

【請求項 9】

MyoDまたはMyf5をコードする核酸を含む薬剤応答性誘導ベクターを有する多能性幹細胞。